

「カトリック片瀬教会司祭館」

このコーナーでは神奈川県内に現存する、スクランブル調査隊メンバーがかかわったり、探訪した歴史的な建物やまちなみを紹介します。

小田急線の「片瀬江ノ島」駅を降り、竜宮城のような駅舎（昭和4年築）を後に左手の商店街を抜けて閑静な住宅街を少し行くと湘南白百合学園小学校が左手に見えてくる。境川の川べりに出たところで、このコロ

ニアルスタイルの洋館が目に入ってくる。同じ敷地内には昭和14年築のカトリック片瀬教会聖堂があり、その和風の佇まいとともに片瀬らしい景観を形づくっている。



このあたりは明治期に鎌倉郡川口村一帯の名主だった山本庄太郎氏が松を植樹して開発を始めた場所である。庄太郎氏には3人の子息がいて、次男の信次郎氏が昭和初期に小田急江ノ島線開通を契機として片瀬一帯の分譲地開発を進めた。

この建物は当初、三男山本三郎氏の結核療養のための住まいとして現在の白百合学園の場所に建てられたが、家族全員が結核に罹患し、亡くなったり療養のために転地したため使われなくなってしまった。その後、信次郎氏がカトリック片瀬教会を献堂するに先立ち、昭和11年に曳家をして司祭館とした。昭和56年に信徒会館を建てるにあたり再度曳家されて現在に至る。2回の移築を経て今日があるのは、それだけ地域の人々にとって愛着のある建物なのであろう。

建物は寄棟の赤い瓦屋根にドーマーが特徴的で下見板張の外壁に白いペンキが塗られているが、曳家前の写真を見ると建築当初はスレート葺きの屋根で、外壁は素地、窓枠等が白いペンキ塗りであったと思われる。床の間のある応接間

内部は洋間も和室も真壁で、掃き出し窓はなく、全て腰付きである。



床の間付の応接間も椅子座で、住宅だった頃からか司祭館になった時に改装されたか不明である。

平面については1階（現在は事務室とユーティリティ）と2階にサンルームがあり、療養のための住宅であったことがうかがえる。

平成20年5月に建築士会湘南支部が実測調査を行った際、スクランブル調査隊も協力している。報告書も発行されているので参照していただきたい。地域の歴史を物語る建物として末永くこの地にあってほしいと願うものである。

名称：カトリック片瀬教会司祭館

所在地：藤沢市片瀬海岸2-2-35

（小田急線 片瀬江ノ島駅下車）

竣工：1926年（大正15年）頃

設計：不明

施工：不明

構造：木造
2階建

和風の聖堂



スクランブル調査隊：佐藤里紗